



今できることプロジェクト

2019年度

レポート

地域のコミュニティ活性化支援

女川町

「懐かしい女川に会える映画鑑賞会」
&
「伊東洋平さんと一緒に女川町のオリジナルソングを作ろう！」

実施/2019年11月16日

参加者/映画鑑賞会61人、オリジナルソング49人



時を超え変わりゆく港町で、思いを受け継ぐために。

女川町における復興とにぎわいの拠点として、盛んな人の流れを生み出してきた「シーバルピア女川」。

その発展と同時に、住環境の整備も飛躍的に進んだことで、地域コミュニティの再編が求められています。

今回は、古い記録をたどってかつての思い出を呼び起こしながら、女川の素晴らしさを再確認する機会づくりを目指し、町民の方を招いた名作映画の鑑賞会と、町外から参加者を募って女川を応援するオリジナルソング作りにチャレンジするワークショップを開催しました。

スクリーンで鮮やかによみがえった ノスタルジックな女川の記憶

震災以降、長らく仮設庁舎での業務を強いられてきた女川町役場ですが、昨年10月、女川駅すぐそばの高台に新庁舎がオープン。「懐かしい女川に会える映画鑑賞会」は、まだ目新しい庁舎内に設けられた生涯学習センターホールで実施しました。女川の海の揺らぎをイメージしたというブルーの階段式座席の上では、石巻市の「オカダプランニング」のスタッフが35mmフィルムの映写機2台を設置して待機。ホールの外では、開演時間よりだいぶ早くから上映を待ちわびるたくさんの女川町民の方々があふれていました。

すべての観客が座席に着き、本プロジェクトのスタッフが簡単な趣旨説明をした後、ライトダウンして上映スタート。壇上のスクリーンに、「あの波の果てまで 完結編」が映し出されました。この作品は、1961年に製作された岩下志麻さんと津川雅彦さん主演によるラブストーリー。若き日の大スターたちによる生き生きとした演技に、観客たちの目線は釘付けになっていました。物語が中盤に差し掛かると、舞台は約60年前の女川町へ。懐かしい風景がスクリーンに映し出され、客席からざわめきが沸き始めました。古めかしい見た目の旧女川駅や女



最も歓声が多かった女川みなとまつりのワンシーン

©1961松竹株式会社

川みなとまつりの盛大なパレード、時代を感じさせる商店街や船着き場のにぎわいなど、どれも現在とはかけ離れた光景ばかり。映画は、劇的なハッピーエンドで締めくくられ、観客はみな感慨深い面持ちで惜しめない拍手を送りました。

上映後、エキストラで出演した経験を持つ町民の一人に感想を聞くと、「当時、高校生だった頃の記憶が鮮明によみがえりました。これから、一緒に映画を観た同級生たちと、思い出話を花を咲かせようと思います」と、うれしそうに語ってくれたのが印象的でした。

復興への願いと希望をつづり 港町に響きわたる歌にのせて

上映後、会場をシーバルピア女川内にある女川町まちなか交流館のホールへ移し、宮城を拠点に活動するシンガーソングライター伊東洋平さんと町内外の参加者で女川応援ソングをつくりました。震災後、同町で演奏活動を展開し、縁が深くなったという伊東さん。会場に登場した伊東さんの表情は、まさに意気込み十分といった様子でした。

歌詞作りに着手するため、キーワードを考えるウォーミングアップを行った後、伊東さんは五・七・五のリズムで女川を表現するフレーズの書き出しを参加者たちにオーダーしました。それぞれ思い思いの言葉を記した手元の用紙を回収し、その中から特に印象深いものを選出してホワイトボードに列挙。さらに厳選したフレーズを書き並べると、伊東さんはギターを手に取り、歌を口ずさみ始めました。期待感にあふれる眼差しで、伊東さんを見つめる参加者たち。「よし、できた!」と会心の一声を発した伊東さんは、できたの応援ソングを披露してくれました。「女川にずっと伝わる歌を尊重したかったこともあり、子どもたちが踊ってくれるような、元気な曲調にしたかった」と、作曲の意図を語った後、全員で合唱練習。そして、緊張とともにレコーディングに挑戦しました。歌い終わると、会場は達成感の拍手でいっぱい。さらに、参加者たちのリクエストを受け、伊東さんは代表曲の「HERO」を熱唱し、ワークショップを終えました。

伊東さんは、参加者一人一人に声を掛け、「果樹園カフェ ゆめハウス」(女川町)と「食パン専門店 ジェノワーズ 大和町店」(仙台市若林区)がコラボレーションした女川産イチジク入りオリジナル食パンを手渡ししながら、お見送り。みんな一体となって一曲を作り上げた充実感の余韻は、なかなか冷めることはありませんでした。



参加者から聞き取ったワードを書き出す伊東さん



レコーディングの前に難しいフレーズを練習

女川の空で

作詞/「今できることプロジェクト2019」女川町イベント参加者
作曲/伊東洋平

海風を感じて走る 398号線

まっすぐに伸びる交わる 水平線

景色違えど 心おどるよ 美しき海

わが家から見る秋刀魚船

近づく列車 足湯のけむり 来るたびに好きになる

空の青 キミの赤 もみじの黄色

冬の花火 おかえりと 増す想い

また逢おう 女川の空で

煌めく風と生きて (※繰り返し)

女川町の
新応援ソングが
完成!



こちらのQRコードから応援ソングを聞くことができます。

伊東洋平さんからの メッセージ

参加者の皆さんがつづってくれた言葉が、どんな命を持った歌詞になっていく感覚が、曲にのせるのが本当に楽しかったです。故郷を思う切ない気持ちも込められていくような感じもあって、本当に良い歌になったと感謝しています。いつか、この歌が女川で広がってくればと期待しております。



参加者の声

鈴木 麻衣さん (仙台市泉区)

これまで、女川町についてあまり知らなかったのですが、実際に足を運んで美しい海の風景を見たり街並みを観光したりして楽しめる機会になりましたし、歌詞作りに参加することで地元ならではの温かみに触れることができたと感じています。完成した応援ソングは、心がワクワクするような良い曲に仕上がっていると思いますので、CDが手元に届くのがとても楽しみです。



原まゆみさん (東京都)

女川町を訪れたのは初めてでした。海も山もきれいで、シーバルピア女川の街並みも素敵で、着実に復興していることを実感することができました。関東出身の私にとって歌詞作りは難しかったのですが、他の参加者の皆さんの思いがこもった言葉を共有することができて良かったです。それを、伊東さんが上手にまとめて歌にしたので、改めてすごいアーティストだと感じました。



私たちも、復興のために「今できること」をともに考え、このプロジェクトを推進していきます。

IHI/アヴィエスホーム/アサヒビール 東北統括本部/岩手日日新聞社/エイチ・アイ・エス/NTTデータ東北/麒麟ビール 仙台支店/ケーズデンキグループ デンコードー/劇団四季/光輝ビルテクノス/神戸製鋼所 サッポロビール 東北本部/サンセイランディック 仙台支店/サントリー酒類 東北支社/JT 東北支社/JTB 仙台支店/住友不動産 東北支店/生命保険協会 宮城県協会/ソフトバンク/大和証券 仙台支店 DICグラフィックス/伝承千年の宿 佐勘/東伸環境/日本製紙/日本製紙クレシア/野村不動産 仙台支店/東日本油化工業/日立システムズ/平松剛法律事務所/富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ 三井不動産 東北支店/三菱地所グループ/宮城県建設業協会/宮城県自動車整備振興会/宮城県法人会連合会/みやぎ生活協同組合/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 宮城支社/河北新報社 (順不同)
©後援/宮城県、仙台市、石巻市、名取市、亶理町、女川町、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、名取市教育委員会 [お問い合わせ]今できることプロジェクト事務局(河北新報社営業部) tel 022-211-1318

皆さんの支援情報や参加しているプロジェクト、感じていることを「今できることプロジェクト」特設HPにお寄せください。

www.kahoku.co.jp/imadeki/

河北 今できること

検索

facebookページもあります。